

積極的に自分の意見をもち、伝え合う児童の育成
～人間関係を築き、よりよい学級・学校を目指す特別活動～



令和5、6年度
研究授業
実践事例集

亀岡市立南つつじヶ丘小学校



目次

1.	令和5年度3年生	研究授業「気合いの入る かけ声をかंगाえよう」	 2
	参観の視点	授業の特色	事後研究会
	指導案		 3
2.	令和5年度つくし	研究授業「お楽しみ会の相談をしよう」	 7
	参観の視点	授業の特色	事後研究会
	指導案		 8
3.	令和5年度2年生	研究授業「1年生と仲良く遊ぼう」	 11
	参観の視点	授業の特色	事後研究会
	指導案		 12
4.	令和5年度6年生	研究授業「南っ子タイムの1回目の遊びを考えよう」	... 16
	参観の視点	授業の特色	事後研究会
	指導案		 17
5.	令和5年度4年生	研究授業 「4年1組のみんながもっと仲良くなれる取り組みを考えよう」	 21
	参観の視点	授業の特色	事後研究会
	指導案		 22
6.	令和5年度5年生	研究授業「雨の日の休み時間を楽しく過ごそう」	 26
	参観の視点	授業の特色	事後研究会
	指導案		 27
7.	令和5年度1年生	研究授業 「6年生へありがとうを伝える方法を考えよう」	 31
	参観の視点	授業の特色	事後研究会
	指導案		 32
8.	令和5年度による学級会活動（1）の型		 36
9.	令和6年度6年生	研究授業「1年生と絆を深める取り組みを考えよう」	... 37
	参観の視点	授業の特色	事後研究会
	指導案		 38
10.	令和6年度つくし	研究授業「お楽しみ会の相談をしよう」	 42
	参観の視点	授業の特色	事後研究会
	指導案		 43
11.	令和6年度3年生	研究授業「光りかがやけ！学習発表会」	 48
	参観の視点	授業の特色	事後研究会
	指導案		 49
12.	活用資料		 53
13.	研究同人		 56

1. 令和5年度3年生 研究授業

「気合いの入る かけ声をかんがえよう」

参観の視点 授業の特色 事後研究会

3年 議題「気合いの入る かけ声を考えよう」

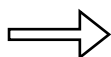
●参観の視点 授業の特色

学級会の流れをつかむ

●事後研究会

○出し合うの型

事前に意見をもっておく！



○メリット

- ・全員が意見をもって話合いにのぞめる
- ・「出し合う」の意見が増える
→「出し合う」の意見があつてこそ比較できる
- ・議題、提案理由、めあてなどを前もって意識でき、共通の土台にのせることができる

○「出し合う」の意見共有の仕方

形式	メリット	デメリット
ロイロノート	すぐに共有できる 全員の意見を把握できる	発表する機会が減る
短冊	比べるのときに動かして比較検討しやすい	時間がかかる 声に出さなくても伝わってしまう
発表	発言する機会となる	板書の時間がかかる 埋もれている意見をひろいにくい

指導案

学級活動（１） 学習指導案

1. 対象 第3学年 24名
2. 日時 令和5年 5月15日 月曜日 第2校時
3. 場所 教室
4. 題材 「気合いの入る かけ声を考えよう」
ウ 学校における多様な集団の生活の向上
5. 題材について
(1) 児童の実態

(個人情報保護のため省略)

(2) 題材設定の理由

学習指導要領の学校行事の（３）健康安全・体育的行事の（オ）には、「各種目の競技会などの実施に当たっては、いたずらに勝負にこだわることなく、また、一部の児童の活動にならないように配慮する必要がある」と明記されている。

新型コロナウイルス感染症対策のため、児童が密集する運動や近距離で組み合ったり接触したりする運動は避けて体育の授業は実施してきた。令和5年度の運動会では、3年生になって初めての大きな舞台で団体競技を行う。学級経営を行うにあたって、団体競技は心を1つにする機会であると考えます。

第3学年は、中学年になって、周りへの意識が育ち、集団形成ができ始める時期である。ポジティブな発言が心や気持ちに与える影響を児童へ実感させながら、楽しい雰囲気の中で競技に臨むために題材設定をした。運動会の団体競技を通して、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする態度を育てたい。

6. 第3学年及び第4学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
・ みんなで楽しい学級生活をつくるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。意見の比べ方やまとめ方を理解し、活動の方法を身に付けている。	・ 楽しい学級生活をつくるために、問題を発見し、解決方法について理由などを比べ合いながら合意形成を図り、協力し合って実践している。	・ 楽しい学級生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己の考えを生かし、役割を果たして集団活動に取り組もうとしている。

7. 事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
5月9日 体育	台風の目のルールを確認する。	一人一人の協力があって、競技の楽しさをつかめるようにする。	競技中に、友達への声掛けの仕方を考えながら取り組もうとしている。 【主体的態度】(観察)
5月10日 終わりの会	競技前に心を一つになれる方法を考える。	勝ち負けにこだわりすぎず、楽しく終われることができる方法について考えさせる。	学級として盛り上がることをする方法について考えている。 【思考・判断・表現】(発言)
5月11日 学活	台風の目の作戦を考える。	作戦への分かりやすい声かけの仕方を考えさせる。	チームが勝つための作戦について考えている。 【思考・判断・表現】(発言・ノート)
5月12日 中間	司会者と次の議題について話し合う。		

8. 本時のねらい

ベストタイムが出て、クラスの心を一つにするための掛け声の仕方を考えている。

9. 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿 【評価方法】(観点)
導入 5分	1. 始めの挨拶 2. 司会の紹介 3. 議題・提案理由・めあての提示 4. 先生から	・議題の設定として、勝つためではなく、気持ちを1つにするという観点を明確に捉えさせる。	ワークシート 掲示物	・提案理由を意識して、自分の意見と友達の意見を比べ、考えている。 【発言・行動観察】 (思考・判断・表現)
展開 35分	5. 話し合い ＜柱1＞ かけ声について考える。 ○出し合う 「ファイト!」「やるぞ」 「勝つぞ」「気合いだ!」 ○比べる 3人グループ→全体 「この2つは似ていると思う」「この意見がいい。なぜなら・・・」 ○決まったことを基に練習する 6. 振り返り	・できるだけたくさんの種類を出せるようにする。 ・キーワードだけでも出せるように考えさせる。 ・短絡的なかけ声になりそうなときには、めあてに立ち返って考えさせる。 ・出だしの言葉を使う児童は、声を出せる児童を選び、作り上げた掛け声の良さを味わうことができるようにする。		
終末 5分	7. 終末助言 8. 終わりの挨拶	・児童の発言などから具体的な態度や言動を挙げて、良かったところや課題を問いかける。		

10. 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
5月23日 運動場	台風の目の練習	友達への声かけがプラスになるようにさせる。	競技中に、友達への声掛けの仕方を考えながら取り組もうとしている。 【主体的態度】(観察)
5月27日 運動会	台風の目の本番		話し合ったことをもとに、実践している。 【知識・技能】(観察)

11. 板書計画

決まったこと	比べる 気合いだ かつぞー! とへー! ファイト	出し合う ・三つより少なくする ・一つ一つは短くする	決まっていること ベストタイムになるかけ声を考える。	めあて かつてまけても力を合わせる事が 大事だから	提案理由 気合いの入る声かけを決めよう	議題
-------------------	---	---	--	--	---	---------------

12. 座席表 (省略)

2. 令和5年度つくし 研究授業「お楽しみ会の相談をしよう」

参観の視点 授業の特色 事後研究会

つくし 議題「お楽しみ会の計画を立てよう」

●参観の視点 授業の特色

特色:グループ討議

個別目標を設定し、必要な支援

学級全体での、話し合いではありません。異年齢集団を意識して、それぞれが活躍できるような場を設定されております。グループの組合せ、どの先生が支援につくか、だれを話し合いの中心に据えるかなど、頭を悩ませながら授業計画を立てていただきました。

つくし学級全体として、今回の話し合いで大切にしたいところは、「自分の意見をもてること」「理由を考えられること」です。

●事後研究会

○題材設定

今回は、「お楽しみ会の相談」ということで、課題設定も授業の流れも自分事ということを大切にして取り組んでいただきました。

○共通の土台に乗せる

お楽しみ会の過去のエピソードを振り返る

お楽しみ会って楽しい!

「社会参画」
みんなが楽しめるように

お楽しみ会やりたい!

「自己決定」

○教師の役割

めあてに立ち返る

水鉄砲

→相手に思いっきり当てたい
「みんながやりたいと思うように伝えないと」
「あっ!暑くなるから気持ちいいよ。」

司会への支援

「ヒントカード」

分からなければ、この紙に書いてあることを聞いてみよう。

指導案

学級活動（１） 学習指導案

- 1 対象 つくし１組３名、つくし２組６名、つくし３組５名 計１４名
- 2 日時 令和５年 ６月 ２１日（水）
- 3 場所 つくし２組教室
- 4 題材 「お楽しみ会の相談をしよう」
- 5 題材について
（１）児童の実態

（個人情報保護のため省略）

（２）題材設定の理由

昨年度の２学期より、「個人の学期の目標」を立て、毎朝、みんなの前に出て、昨日の達成度をふり返る中で、自己評価だけではなく、友達からの評価も取り入れながら自分の目標を意識し学校生活を送れるようになってきている。そして、一人一人が自分の頑張りや友達からの励ましを受けて目標が達成できた時には、「お楽しみ会を開く」ことにしている。がんばった先にはみんなで楽しいことがあるという見通しを持って取り組めるようにしてきた。昨年度「どんなお楽しみ会をしたいか」の話し合いを行ったとき「鬼ごっこがしたい」という意見に対し「それはつくし体育でできるから、いつもと違うことをしたい」と発言する児童がいた。この学習においても児童同士の意見のやりとりが、自分たちのやってみたい「自分事」の事柄を元にして生まれるようにしていきたい。

（個人情報保護のため省略）

6 児童の姿と個別の課題設定（省略）

7 つくし学級における「3つの視点」

つくしの仲間の中で（①人間関係形成）、話合いに自分から参加し、やってみたいことを見つけれ、意見が言え（②社会参画）、計画の実現に向け、自分の役割を理解し、活動・行動する中で実現できたことを楽しめる姿（③自己実現）。3つ視点を分けて捉えると同時に合わせて捉える視点も大切に取り組む。

8 本時のねらい

お楽しみ会の計画に参加でき、友達の意見を聞き認め合いながら、自分のしたいことを決めることができる。

9 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点 (担当 T)	目指す児童 の姿
導入 5分	①初めの挨拶 ②活動の流れの紹介	①声の大きさ、全体を見て必要なことを伝えているか。 ②何をするのか明確にさせる。	
展開 35分	③読みきかせ（10分） ④「1学期の目標」の発表 （3、4年2人）（5分） ⑤討議内容の紹介 お楽しみ会の相談をしよう ⑥討議（20分） 討議に向けた準備 ・昨年したことを新入生に写真を見せながら説明をさせる。 （お楽しみ会とは）（内8分）	③アニメーションの発想を取り入れながら、双方向のやりとりを大切に 取り組む。 ④自己評価をまず明確にし、他者評価を受け入れつつ、最終の自己評価（多角的な自己評価）になるようにする。 ⑤討議内容の紹介し、討議に向けての流れを整理する。 ⑥教師の分担を決め支援を進めるようにする。 (T1：進行) (T2：機器補助) (T3：児童補助)	・「個別の課題設定」に準ずる。
	討議 ・何をしたいか ☆グループで相談する（内6分） ☆グループ毎に発表する（内6分） ☆討議（理由を付けて何をしたいか話す）	・討議のグループ分けの担当に分かれ支援を行う。 ・やりたいことを理由をつけて複数出せるように話し合えるようにする。 ・板書に「したいこと」と「理由」を整理して書く。	
終末 5分	⑦ふり返りと見通し	3点確認する。 ①自分の意見がもてたか ②理由が言える（相手の思いに気づく） ③ルールを守り話し合えたか	

10 討議のグループ分け（一番上がグループリーダー）・支援方法

(4年)	(4年)	(6年)	(4年)
(3年)	(4年)	(3年)	(5年)
(2年)	(1年)	(1年)	(2年)
(1年)			(1年)
	グループ活動での個別目標を立て、支援方法を記入（省略）		

1 1 座席表（省略）

3. 令和5年度2年生 研究授業「1年生と仲良く遊ぼう」

参観の視点 授業の特色 事後研究会

2年 議題「1年生と仲良く遊ぼう」

●参観の視点 授業の特色

異年齢集団で発揮される力 授業形態

特色:グループ(班)討議

今回は、「意見をもつこと」「友達の見解を聞く」ことを大事にされます。そして、班で理由を明確にしながら、できるだけ遊びの数をしぼっていきます。自分のことでは無く、1年生のことを考えながら、話合いができるかがポイントです。きらりと光る意見を探してみましょう。

●事後研究会

○出し合うの型2

事前に意見をもっておく!

+

意見をやや絞れる方へ

決まっていることを事前に
めあてを事前に
安全面を事前になど

○メリット

- ・不毛な意見や話合いが無くなる
例えば:体育館では、4クラスではおにごっこはできない
- ・反対意見への代替案を考えられる
例えば:イス取りゲームを体育館でするには、どうする

○意見を明確型

視覚化して意見を明確に

○方法1

意見を色分け

例えば 白...意見
黄...提案 疑問点
青...賛成

○方法2

思考ツールを活用

種類についてはロイロノートを参照

指導案

学級活動（１） 学習指導案

- 1 対象 第２学年２組 ２０名
- 2 日時 令和５年 ７月１２日 水曜日 第２校時
- 3 場所 ２年２組教室
- 4 題材 「１年生と仲良く遊ぼう」

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

- 5 題材について
(1) 児童の実態

(個人情報保護のため省略)

(2) 題材設定の理由

本学級の児童は入学してきた１年生と仲良くなるために、自己紹介をしたり、学校案内をしたりしてきた。毎日の下校では、２年生がリーダーとして先頭に立ち、安全に歩けるように声掛けをする姿も見られるようになってきた。さらに仲良くなるために、遊びを通して交流をしていくことができればと考えている。

また、学年においては、５月から学級全員で遊ぶ「みんな遊び」の時間を設定している。週１回の中間休みは、「みんな遊び」をする時間になっている。当初は、あそび係を中心に遊びの内容を決めていたが、話し合い活動を取り入れてみんなの意見を聞いて決めるようになってきた。中には、自分のやりたい遊びではないことや、外で遊びたくないという理由で参加しにくい児童も見られたが、回数を重ねるにつれて、みんなで遊ぶ楽しさを感じ始めているように思う。もう一つ変化が見られたことは、遊びに向かう姿勢である。初めの頃は、休み時間になると担任が声を掛けて集合場所を伝え、担任が来るまで遊びを始められずにいたが、今では自分たちで遊びを始められるようになってきた。また、遊びの中で起こるもめ事や気持ちのすれ違いなどもその都度解決してきた。自分達を楽しめるようになってきた遊びに１年生を誘い、さらに仲を深めていけるようにしていきたい。

今回の話し合い活動では、「自分の意見を持つ・友達の意見を聞く」ということを大切にしながら、グループで合意形成を図るところにつなげていきたい。また、２学期の生活科「せかいでひとつわたしのおもちゃ」の単元で、おもちゃを使って遊ぶ活動を通して、１年生を招待して遊びを楽しんだり、みんなで遊ぶ楽しさを実感させたりすることに繋がたい。

6 第1学年及び第2学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
- みんなで学級を楽しくするために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 - 話合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	学級を楽しくするために、問題を発見し、解決方法について話合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	学級を楽しくするために、見通しをもったり、振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団生活に取り組もうとしている。

7 事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
5月	学級のみんな遊びについて話し合う。	みんなが楽しめることを考えて意見を出せるように支援する。	決まった遊びの中で、みんなが楽しめるように考えながら声を掛けたり取り組んだりしようとしている。 【主体的態度】(観察)
6月初旬	雨の日のみんな遊びについて話し合う。	雨の日に使うことができる場所や、できる遊びが限られることを考えながら、みんなが楽しめる遊びを考えられるように支援する。	話合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解している。 【知識・技能】(観察)
6月中旬	2年2組の課題を考え、良くなるためのルールを決める。		よりよい学級をつくるために振り返ったり、自己の考えを発表したりして取り組んでいる。 【主体的態度】(観察)
7月初旬	司会者と次の議題について話し合う。		・提案理由を意識して、自分の意見と友達の意見を比べ、考えている。 【発言、行動観察】 (思考・判断・表現)

8 本時のねらい

1年生と仲良くなり、遊びの楽しさを知ってもらうための遊びを考えている。

9 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿 【評価方法】（観点）	
導入 5分	1. 始めの挨拶 2. 司会の紹介 3. 議題・提案理由・めあての提示 ○議題	・議題の設定として、自分たちだけが楽しむのではなく、1年生も楽しめるようにするという目的を明確に捉えさせる。	ワークシート 掲示物		
	議題：1年生とたのしめるあそびを考えよう。				
	○提案理由				
	① 1年生となかよくなりたいたいから。② 1年生にあそびのたのしさを知ってほしいから。				
展開 35分	4. 先生から	・「1年生のために」ということを考えさせる。 ・事前に決まっていることとして、 ① 1時間でできること ② みんなでできるあそび ③ 体育館で行う を伝えておく。		・提案理由を意識して、自分の意見と友達 の意見を比べ、考えている。 【発言、行動観察】 （思考・判断・表現）	
	5. 話し合い 「1年生と一緒に遊べる遊びを考える。」 ○出し合う 「おにごっこ」 「かくれおに」 「かくれんぼ」 「ドッチボール」 「かくれんぼ」 「ふえおに」 「しんかじゃんけん」 ○比べる 班⇒全体 ① 新しい意見を言う。 ② 意見と意見を合わせる。 ③ 少しずつみんなの意見を聞けるようにする。 6. 振り返り	・事前にロイロノートでアンケートを取り、自分の意見がもてるようにする。 ・事前に自分の意見を書いた短冊をもっていき、黒板にはることで全員が意見を出せるようにする。 ・できるだけたくさんの種類を出せるようにする。 ・理由も一緒に言えるようにする。 ・自分たちの遊びたい遊びを考えている場合は、めあてに立ち返って「1年生のために」ということを考えさせる。 ・班で1つの意見に絞れるようにする。 ・理由を明確に出せるようにする。 ・次にどうしたらよいのか考えられるようにする。			
終末 5分	7. 終末助言 8. 終わりの挨拶	・児童の発言などから具体的な態度や言動を挙げて、よかったところや課題を問いかける。			

10 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
7月中旬	1年生を遊びに誘う。	1年生が楽しむことができるような活動になるよう意識させる。	自分の役割を理解し、グループで協働し取り組もうとしている。 【知識・技能】(観察)
7月下旬	遊びの振り返りをする。	自分だけでなく、友達のよさやがんばりを認められるようにする。	取組を通じた自身や友達の頑張りに気付いている。 【主体的態度】(ワークシート)

11 板書計画

話合えないよう 一年生とたのしめるあそびを考えよう	ていあんりゆう 一年生となかよくなりたいから。 一年生にあそびのたのしさを知ってほしいから。	めあて 自分の意見をもつ。 友だちのいけんを聞く。	きまっていること ・一時間でできること・たいいくかん ・みんなであそべるあそびにすること	出し合う ・リレー・ケイドロ・かわりおに・ふえおに ・おにごっこ・だるまさんの一日・かくれおに ・ドッチボール・こおりおに	くらべる	きまったこと
---	--	---	--	--	-----------------	-------------------

12 座席表 (省略)

4. 令和5年度6年生 研究授業

6年 議題「南っ子タイムの1回目の遊びを考えよう」

参観の視点 授業の特色 事後研究会

6年 議題「南っ子タイムの1回目の遊びを考えよう」

●参観の視点 授業の特色

メタ認知:客観的に自分をとらえる力 物事を考える力

特色1:グループ活動をはじめに持ってくる

全員が自分の意見を全体場で発表したり、議論に参加したりするのが理想ではありますが、難しいのが現実です。個々の意見をグループで出し合ってから、話し合います。その良さや改善点を研究していきましょう。

特色2:意見と理由を明確に分け、板書する

視覚的支援によって、比べるの話合い活動がどのように活性化するかを吟味したいと思います。また、どのような方法が全体で生かせるかを研究していきましょう。

●事後研究会

板書

○意見と理由を分かりやすく板書

例:ホワイトボードを活用

色分け

○意見を移動できる板書

例:ホワイトボード活用

紙とセロハン活用

○比べる時の理由も板書

決定!

司会グループとの打ち合わせ

○学級会の流れを確認

・展開を一緒に予想する

・終着点を一緒に予想する

・司会者グループの意見を考える

指導案

学級活動（１） 学習指導案

- 1 対象 第6学年 27名
- 2 日時 令和5年 9月6日 水曜日 第2校時
- 3 場所 教室
- 4 題材 「南っ子タイムの1回目の遊びを考えよう！」
ウ 学校における多様な集団の生活の向上
- 5 題材について
(3) 児童の実態

(個人情報保護のため省略)

(2) 題材設定の理由

本時の題材は「南っ子タイムの初回の遊びを考えよう！」である。南っ子タイムでは最上級生として一人一人が各グループのリーダーとなる。下級生を引っ張っていくことが今まで以上に求められるため、自分自身に必要なことを話し合うという切実性が生まれるため本題材を設定した。

また、学級で初回の遊びを考える活動では、「色々な学年の人がみんなで楽しめる」「教室内でできる」「安全である」「準備や説明が簡単で10分程度でできる」といった条件をもとに、多角的に考えながら、よりよい遊びを考えていく力を身につけさせることを大切にしたい。

そして、この話し合いをすることで、一人一人が今後の遊びを計画する上でどのようなことを考えて計画しなければならないか考えるヒントとなることも期待したい。

6 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
- みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 - 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し活動の方法を身につけている。	楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、問題を発見し、解決方法について多様な意見の良さを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、見通しを持ったり振り返ったりしながら自己の良さを発揮し、役割や責任を果たして集団生活に取り組もうとしている。

7 事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
5月	運動会に向けて取り組むことを考えよう。	一人一人が運動会をより盛り上げることが出来る取り組みを自由に出せるようにする。	運動会を盛り上げる取り組みについて考えている。【思考・判断・表現】
6月	学校生活を見直そう。(前日に司会グループと進行や記録を確認)	課題からよりよい生活を考えさせる	学級の実態などから改善点を考えている。【思考・判断・表現】
7月初旬	お楽しみ会の内容を考えよう。(前日に司会グループと進行や記録を確認)	多様な意見から折り合いをつけて決めることを意識させる。	よりみんなが納得して取り組めるようにお楽しみ会の内容について考えている。【思考・判断・表現】
9月初旬	2学期の目標を考えよう。(前日に司会グループと進行や記録を確認)	学級の実態や今後に向けてよりふさわしい目標を考える。	学級の実態や今後の展望などを踏まえ、2学期の目標について考えている。【思考・判断・表現】
9月初旬	南っ子タイムで、他の学年がどのようなことを思ってくれたら成功といえるか考えよう。(前日に司会グループと進行や記録を確認)	南っ子タイムを通しての自分達のゴールの姿を考えることで、遊びや計画に必要な力を意識させる。	行事の性質などから、なりたい自分の姿について考えている。【思考・判断・表現】

8 本時のねらい

議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考える。

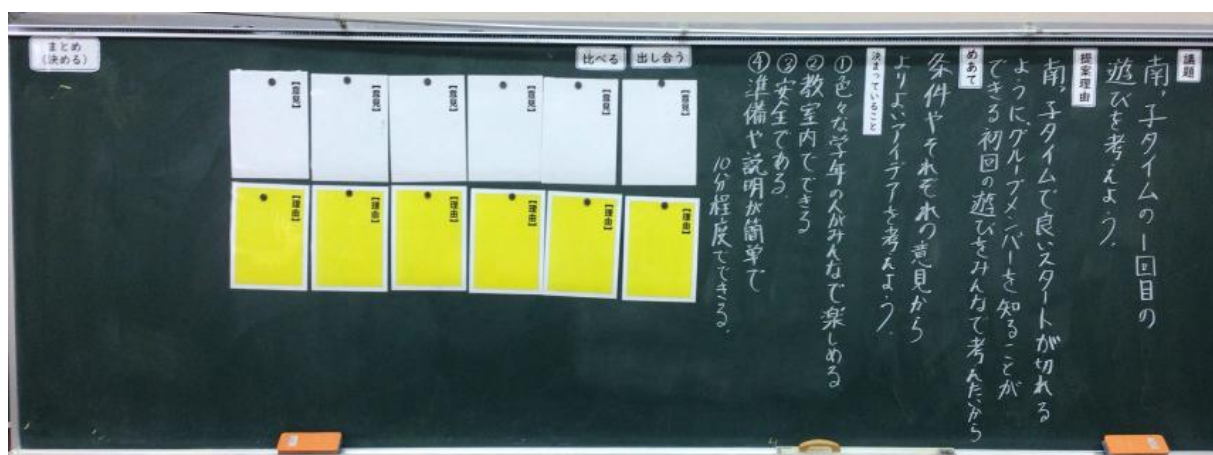
9 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿 【評価方法】(観点)
導入 5分	1. 始めの挨拶 2. 司会の紹介 3. 議題・提案理由・めあての提示 ○議題	○挨拶などは短時間にまとめ、展開の時間を確保する。 南っ子タイムの1回目の遊びを考えよう！	タブレット 掲示物	○議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考えている。 (思考・判断・表現) 行動観察]
	○提案理由	南っ子タイムで良いスタートが切れるように、グループメンバーを知ることができる初回の遊びをみんなで考えたいから。		
	○めあて	条件やそれぞれの意見からよりよいアイデアを考えよう。		
	○条件	① 色々な学年の人がみんなで楽しめる ② 教室内でできる ③ 安全である ④ 準備や説明が簡単に10分程度でできる		
	4. 先生から	○よりよいアイデアを生み出すために全員が粘り強く取り組むよう指導する。		
展開 35分	5. 話し合い [出し合う] ○事前に考えた個人の意見からグループの意見を出す。 ○出た意見に対して質疑応答をする。 [比べる] ○出ている意見からよりよい意見を考える [まとめる]	○個人の意見は本時までにはタブレットで提出し、全員が見られるようにしておく。 ○最初にグループ活動を入れることで意見を絞りつつ、話し合いに参加しやすいようにする。 ○発表者は事前に決めておく ○意見を発表するときは必ず理由も発表させる。 ○「比べる」際は意見や理由をシートにまとめて黒板に掲示することで、考えを整理しやすくする。 ○板書については教師が積極的に支援をし、児童が話し合いに集中できるようにする。 ○必要に応じて、どの意見に自分の考えが近いか挙手させることで現状を把握させ、少数の意見も意識させながらまとめにつなげる。 ○それぞれの意見のよさを踏まえ順番や取り組み方を工夫することを目指す。	掲示用シート ホワイトボード マーカー	
終末 5分	6. 終末助言	○ふりかえりの観点をもとに、次への話し合いに前向きな思いがもてるように助言をする。		
	7. 振り返り	○自分の意見をもてたか、よりよい意見を考えることができたか、話し合いに積極的に参加できたかの観点をもとに振り返る。		
	8. 終わりの挨拶			

10 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
9月21日	南っ子タイム初回で決まった内容を実践していく。	決まったことを実際にやり遂げていくことで、話し合いの内容が自分達の学校生活に直結することを実感させる。	話し合ったことを元に実践している。【主体的態度】(観察)

11 板書計画



12 座席表 (省略)

5. 令和5年度4年生 研究授業

「4年1組のみんながもっと仲良くなれる取り組みを考えよう」
参観の視点 授業の特色 事後研究会

4年 議題「4年1組のみんながもっと仲良くなれる取り組みを考えよう」

●参観の視点 授業の特色

出し合うの細分化・板書の色分け

●事後研究会

特色1:出し合うの細分化

出し合うの時間を細分化します。共通の土台にのせるために教師の介入も意図的に行う予定です。

確認：タブレットの意見を見る時間

疑問：友達の意見で分からないところを質問する時間

賛成：意見のいいところを出す時間

心配：意見に対して不安要素を出す時間

提案：不安要素を解決する時間

特色2:板書の色分け

視覚的支援によって、比べるの話合い活動がどのように活性化するかを吟味したいと思います。また、どのような方法が全体で生かせるかを研究していきましょう。

●事後研究会

○共通確認決定事項

①板書：色分けをして視覚支援を行う

例 白：意見 黄色：理由 青：心配事 オレンジ：提案

②指導案

計画委員会について、どのようなことを話合ったか、確認したのかを指導案に含める。

③めあて

授業の内容に関する物ではなく、技術的な部分について「めあて」を決めるようにお願いします。最後の教師からの話で、めあてに触れつつ、達成感、自己有用感が高まるアドバイスをしましょう。



指導案

学級活動（１） 学習指導案

- 1 対象 第4学年 25名
- 2 日時 令和5年 11月6日 月曜日 第2校時
- 3 場所 教室
- 4 題材 「みんながもっと仲良くなれる取り組みを考えよう」

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

- 5 題材について

（１）児童の実態

（個人情報保護のため省略）

（２）題材設定の理由

本時の議題は「みんながもっと仲良くなれる取り組みを考えよう」である。この議題になった経緯として、学級会で話したい議題は何かとアンケートを取ったところ、「最近ではクラスで喧嘩がなくなってきたが、たまにあるのでなくしていきたい。」「このクラスで過ごす時間が少なくなっていたのでもっとみんなと仲良くなりたい。」「もっとみんなが安心する教室にしたい。」という意見が多かったことがきっかけである。

取組をする条件1として「朝の会中に取り組むことができること。」とする。朝の会に取り組むことで、その日にクラスのみんなと話すきっかけになってほしいという思いから朝の会に設定した。本学級会で決まったことを実践してみて、改善すべき点があれば次回の学級会で取組の条件を増やしていきたいと考える。また、条件2として「みんなのことが知れるような取組」にもなるようにする。仲良くなるということは、もっと学級のみんなのことを知ることだと考える。朝の会でみんなのことを毎日知っていくことで少しずつみんなが仲良くなれたらと考える。以上の2点を決まっていることに挙げて、話し合いを進めていく。

本学級会で決まったことを実際に取り組む中で、良かったところと、改善したいところを今回の議題を基に考えさせ、次回の学級会の議題や決まっていることの設定につなげていきたい。

6 第3学年及び第4学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
・ みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 ・ 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し活動の方法を身につけている。	・ 楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、問題を発見し、解決方法について多様な意見の良さを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	・ 楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、見通しをもったり振り返ったりしながら自己の良さを発揮し、役割や責任を果たして集団生活に取り組もうとしている。

7 事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
5月	どのようなクラスにしたいか考えよう。	学級会の基本的な流れを理解できるようにする。	学級の実態などからよりよいクラス像を考えている。【思考・判断・表現】(観察)
5月中旬	青組に勝てるような綱引きの声かけを考えよう。	たくさんの意見を出し、よりよい声かけを考えるようにする。	議題や決まっていることに着目して声かけを考えている。【思考・判断・表現】(発言・ワークシート)
5月下旬	力強く縄が引けるような綱引きの並び方を考えよう。	たくさんの意見の中からよりよい意見を折り合いを付けて考えるようにする。	議題や決まっていることに着目して並び方を考えている。【思考・判断・表現】(発言・ワークシート)
7月初旬	お楽しみ会でしかできない遊びを考えよう。	友達の意見に対して肯定的な意見を伝えることができる話合いをする。	1学期を終えて休み時間にはできないようなみんなの仲が深まる遊びを考えている。【思考・判断・表現】(発言・ロイロノート・ワークシート)
9月中旬	どのようにしたらクラスで忘れ物がなくせるのかを考えよう。(前日に司会グループと進行や記録を確認)	提案理由や決まっていることからよりよいアイデアを考えるようにする。	自分達で決めた議題でみんなが納得できるようなアイデアを考えることができる。【思考・判断・表現】(発言・ロイロノート・ワークシート)
10月上旬	ひかり幼稚園の園児と遊ぶ遊びを考えよう。 (前日に司会グループと進行や記録を確認)	新たな学級会の流れを確認し、肯定的な意見で話合いを進めることができる。	友達の意見の心配点をなくした上で、肯定的な意見で話合いを進めている。【思考・判断・表現】(発言・ワークシート)
10月中旬	毎日みんなが当番を忘れずにできる方法を考えよう。 (前日に司会グループと進行や記録を確認)	司会の問いかけに対して意思表示をすることができる。	提案に対して自分の意見をもち、意思表示しながら方法を考えることができる。【思考・判断・表現】(発言・ワークシート)

8 本時のねらい

それぞれの意見を理解し、共通点や改善点を比較し、めあてに合う意見を判断することができる。

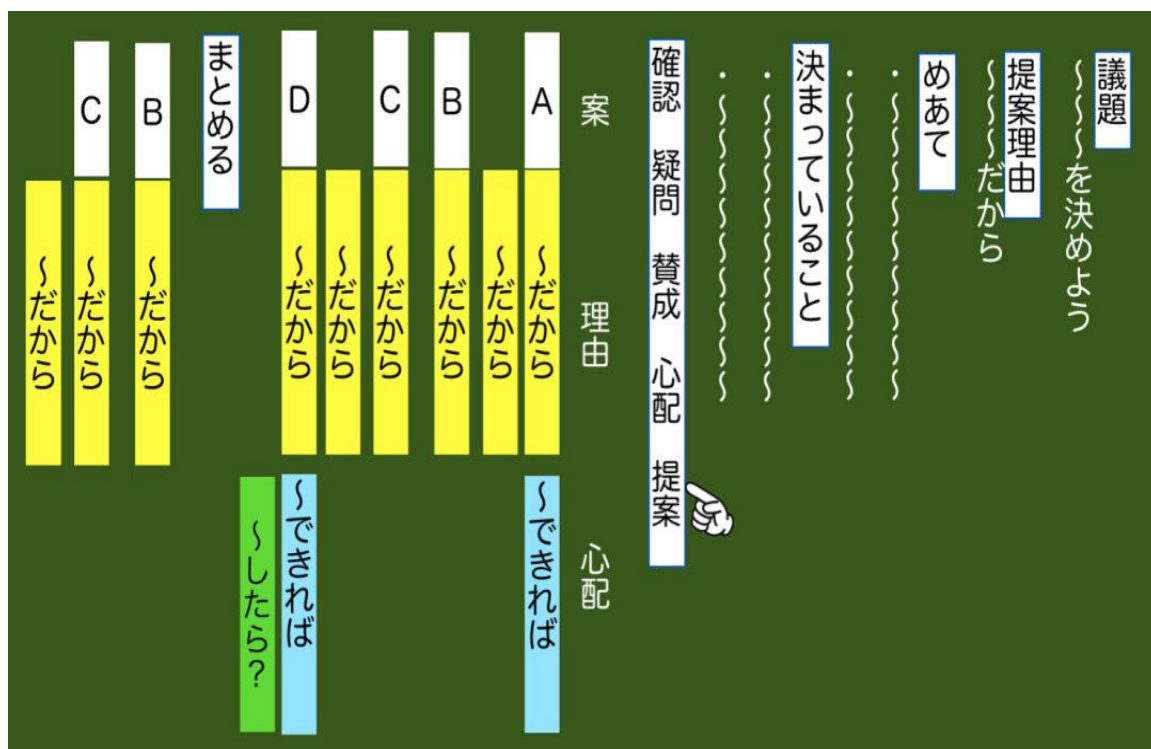
9 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿 【評価方法】(観点)
導入 5分	[確認] 1. はじめのあいさつ 2. 議題 3. 提案理由 4. 先生からのお話 5. めあて 6. 決まっていること	○挨拶などは短時間にまとめ、展開の時間を確保する。 4年1組のみんながもっと仲良くなれる取り組みを考えよう。 友達の新たな一面を知り、クラスの友達と話すきっかけをつくって、みんなともっと仲良くなりたいと思ったから。 友達の意見を聞き、それに対して自分の考えをもとう。 ①朝の会中に取り組むことができる ②みんなのことが知れるような取り組み		
			タブレット 学級会ノート 掲示物	
展開 35分	7. [出し合う] ○下の手順に従って意見を比べ合う。 ①確認 ②疑問 ③賛成 ④心配 ⑤提案 8. [まとめる] ○[出し合う]から何がよいのか、班で話し合わせる。 ○自分がよいと思った意見を学級会ノートに書く。 ○出た意見の中から合意形成を図る。	○個人の意見は本時までにタブレットで提出し、全員が見られるようにしておく。 ○最初に友達の意見への疑問点をなくし、スムーズな話し合いになるようにしておく。 ○全体での話し合いに移る前に自分がよいと思う意見を学級会ノートに書かせる。 ○出た意見は教師が短冊に書き、書記の児童が黒板に貼り付け、案や意見を整理させる。 ○[まとめる]に入る前に、司会に本時の議題と決まっていることを再確認させる。 ○どの案がよいのか、班でもう一度交流し、自分は何がよいのか決定し、学級会ノートに書かせる。	タブレット 学級会ノート 掲示物	○それぞれの意見を理解し、共通点や改善点を比較し、めあてに合う意見を判断することができる。 【思考・判断・表現】 (発言・学級会ノート)
終末 5分	9. 振り返り ○今日の活動の振り返りを学級会ノートに書く。 10. 終末助言 11. 終わりのあいさつ	○ふりかえりの観点をもとに、次の話し合いに前向きな思いがもてるように助言をする。	学級会ノート	

10 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
11月中旬	○学級会で決まったことに取り組む。	○決まったことを実践していく中でよいことや改善した方がよいところを考えさせる。	○クラスみんなで決めたことを協力し合って、実践している。 【主体的に取り組む態度】 (活動の様子)
11月下旬	○取り組みの振り返りをして今後の活動を考える。	○活動してよかったところや改善するべきところを話し合い、次回の学級会に繋げられるようにする。	○取組を通して、みんながもっと仲良くなれたか振り返り、今後の活動を考えている。 【思考・判断・表現】 (発言・ロイロノート)

11 板書計画



12 座席表 (省略)

6. 令和5年度5年生 研究授業

「雨の日の休み時間を楽しく過ごそう」

5年 議題「雨の日の休み時間を楽しく過ごそう」

参観の視点 授業の特色 事後研究会

●参観の視点 授業の特色

話合いの柱を2本立て

特色1:ミニ学級会(10人前後)

下記のことを目的としています。

- ・発表の場面を増やす
- ・自分の思いを伝えやすくする(発表のハードルを下げる)
- ・全員が学級会に参加したという肯定感を上げる
- ・全員を共通の土台にのせ、自分事とする

●事後研

○共通確認決定事項

①柱について

- ・柱では「何を話し合っているのかを明確に」するため明示する
- ・柱2は流動的になる可能性がある

例

柱1:係活動を決める	柱2:誰がどこに入るか
柱1:遊びを決める	柱2:どんなルールにする
柱1:イベントのめあて	柱2:具体的内容
柱1:プレゼント作り	柱2:どのように渡す

決定!

②教師からの振り返りについて

- ・子どもが気付かない点で褒める

指導案

学級活動（１） 学習指導案

- 1 対象 第5学年 30名
- 2 日時 令和5年 12月13日 水曜日 第2校時
- 3 場所 教室
- 4 題材 「雨の日の休み時間を楽しく過ごそう」

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

- 5 題材について

（１）児童の実態

（個人情報保護のため省略）

（２）題材設定の理由

本時の議題は「雨の日の休み時間を楽しく過ごそう」である。この議題になった経緯として、学級会で話したい議題を目安箱で募集をしたところ、「雨の日に廊下やワークスペースで走る人が多い」という意見があったからである。

取組をする条件として「全員で取り組めること」と「教室かワークスペースで取り組めること」の二つを設定した。また、話合いのねらいは二つ設定した。一つ目は「いろいろな角度で考えること」である。「全員で取り組めること」を条件としているため、「クラス全員でゲームをする」といった発想は、容易に出ると予想される。しかし、児童の考えが「〇〇遊び」ととどまらず、発表や出し物、カードゲーム等の道具作り、歌や動画視聴など、多角的なアイデアを出し合い、話合う姿を期待したい。

二つ目は、「司会が話合いをまとめられるように努力すること」である。司会は話合いを円滑に進めつつ、「まとめる」段階では「〇〇の意見は、課題が解決されており、議題にも合っているためよいと思います。〇〇にしてはどうですか。」などと、結論につながるような発言ができるようにする。司会に決定権がある訳ではなく、あくまでも話合いをまとめるための道筋を立てるようにさせる。このねらいを全体で共有することで、話

合いをまとめようとする意識も共有できるようにしたい。

6 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
- みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 - 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し活動の方法を身につけている。	楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、問題を発見し、解決方法について多様な意見の良さを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、見通しを持ったり振り返ったりしながら自己の良さを発揮し、役割や責任を果たして集団生活に取り組もうとしている。

7 事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
1 1月	給食の配膳を素早く終わらせられる方法を考えよう (ミニ学級会：前日に司会グループと進行や記録を確認)	多くのアイデアを出し合い、そこからよりよい結論を出すことを意識させる。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 【知識・技能】(発言・ワークシート)
1 1月中旬	給食の配膳を素早く終わらせられる方法を考えよう (全体会：前日に司会グループと進行や記録を確認)	いろいろな可能性を考えながら、自分たちがしてみたい方法を決めるようにさせる。	楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、問題を発見し、解決方法について多様な意見の良さを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している【思考・判断・表現】(発言・ワークシート)
1 2月下旬	仲良くなるための歓迎会を計画しよう。(ミニ学級会：前日に司会グループと進行や記録を確認)	転入生を温かく迎えるための会を計画するという前提を意識させる。	合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し活動の方法を身につけている。【知識・技能】(発言・ワークシート)
1 2月初旬	仲良くなるための歓迎会を計画しよう。(全体会：前日に司会グループと進行や記録を確認)	実際に実施してみてもわかったことや感じた疑問などを、積極的に話し合わせる。	楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、問題を発見し、解決方法について多様な意見の良さを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している【思考・判断・表現】(発言・ワークシート)
1 2月中旬	雨の日の休み時間を楽しく過ごそう。(ミニ学級会：前日に司会グループと進行や記録を確認)	いろいろな角度で考え、意見を話し合うようにさせる。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 【知識・技能】(発言・ワークシート)

8 本時のねらい

議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考える。

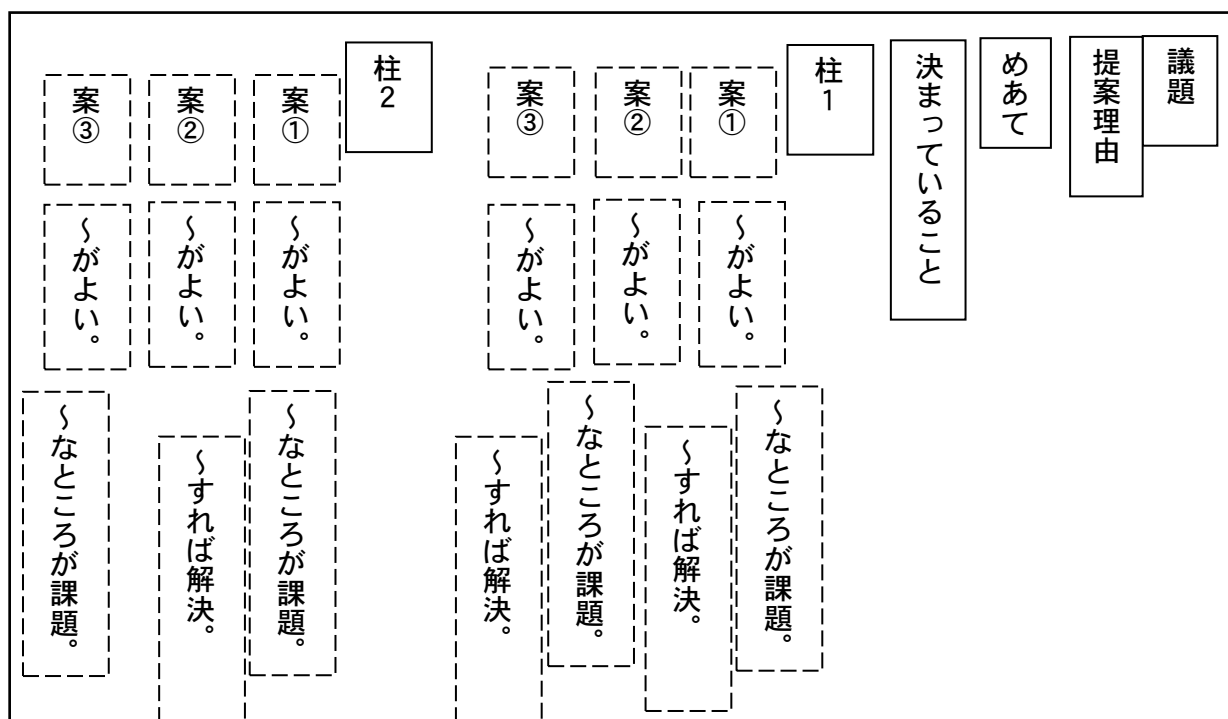
9 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿 【評価方法】(観点)
導入 5分	[確認] 1. はじめのあいさつ 2. 議題 3. 提案理由 4. 先生からのお話 5. めあて 6. 決まっていること	○挨拶などは短時間にまとめ、展開の時間を確保する。	タブレット 掲示物	
		議題 雨の日の休み時間を楽しく過ごそう。		
		提案理由 雨の日に廊下やワークスペースで走る人が多いから、楽しく安全に過ごせるようにしたい。		
		めあて いろいろな角度から考えよう。 司会は話をまとめられるように努力しよう。		
展開 35分	7. 柱1[出し合う] ○前時のミニ学級会で決まったことを発表する。 [比べる] ○出ている意見からよりよい意見を考える。 [まとめる] ○出た意見の中から合意形成を図る。 8. 柱2[出し合う] ○個人の考えをタブレットに記入する。 [比べる] ○出ている意見からよりよい意見を考える。 [まとめる] ○出た意見の中から合意形成を図る。	○グループの意見は本時までにタブレットで提出し、全員が見られるようにしておく。	タブレット 掲示物	○議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考える。 【思考・判断・表現】 (発言・学級会ノート)
		○話のつながりを意識させる。		
		○出た意見は「よさ」「課題」「解決案」の3つに分けて、短冊に書く。		
		○[まとめる]に入る前に、司会に本時の議題と決まっていることを再確認させる。 ○司会に結論への道筋を示させる。 ○司会が示した道筋に対して、意見や考えがあれば発表させる。		
終末 5分	9. 振り返り ○今日の活動の振り返りを学級会ノートに書く。 10. 終末助言	○柱①で決まった内容を元に、柱②を決める。		
		○必要なら個人の考え、グループで話し合う時間を設けさせる。		
		○同意・提案・質問を中心とする話し合いをさせる。		
		○ふりかえりの観点をもとに、次の話し合いに前向きな思いがもてるように助言をする。	学級会ノート	

10 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
12月～ (荒天時)	○学級会で決まったことに取り組む。	○決まったことを実践していく中でよいことや改善した方がよいところを考えさせる。	○クラスみんなで決めたことを協力し合って、実践している。 【主体的に取り組む態度】 (活動の様子)

11 板書計画



12 座席表 (省略)

7. 令和5年度1年生 研究授業

「6年生へありがとうを伝える方法を考えよう」

参観の視点 授業の特色 事後研究会

1年 議題「6年生へありがとうを伝える方法を考えよう」

●参観の視点 授業の特色

相手意識をもたせる効果性

他の学年、転校生、保護者、先生など誰の気持ちが考えながらできるかを注意して参観をします

特色1:意見をつなげる

普段の授業で意見があちこちにとんでしまうことはありませんか。
そこで、今回は、出た意見に反応し、その意見に対する意見を出すことで展開を分かりやすくする取組をされます。

●事後研究会

①理由を充実させるために

授業を見ている中で意見が光っていると思ったのは、どんな意見でしたか？相手意識や経験の重要性が目立ったかもしれません。

◆ 相手意識をもっている

「○年生は、～だから。」「□の立場になると・・・」

◆ 経験から考える

「○年生の時には、やってみると・・・」

②つなげる

話合いに欠かせないのは、意見についてのレスポンス（反応・返事）があるか

◆ その意見についてどう思うか（賛成？反対？理解できない？）

◆ 質問や疑問に対して応える → その応えて理解できたのか

A「○○ってなんですか」 B「○○とは□□です」 A「わかりました」

③合意形成の経験を積ませる

多数決に偏らない合意形成の経験を積ませることが重要です。

◆ まとめが終わってから、どんな合意形成ができていたのかを振り返る

AとBから発想の違うCを生みだした

例：「鬼ごっこ」と「サッカー」→○年生にアンケートをとろう

AとBで順番を付けて行った

例：「野球」にします。「サッカー」は次の休み時間でやりましょう

指導案

学級活動（１） 学習指導案

- 1 対象 第1学年 22名
- 2 日時 令和6年 1月17日 水曜日 第2校時
- 3 場所 教室
- 4 題材 「6年生へありがとうを伝える方法を考えよう」

ウ 学校における多様な集団の生活の向上

- 5 題材について

(1) 児童の実態

(個人情報保護のため省略)

(2) 題材設定の理由

本時の議題は、「6年生へありがとうを伝える方法を考えよう」である。この議題になった経緯として、学級会で話合いたい議題をロイロノートで募集したところ、「6年生に、そうじや南っ子タイムでたくさんお世話になったから、楽しませたい。」「小学校生活最後なので、中学生になる前に、楽しんでほしい。」「もうすぐ卒業するから、ありがとうの気持ちを最後に伝えたい。」という意見が多かったことがきっかけである。

取組をする条件として、「6年生と一緒に楽しめて、喜んでもらえること」「みんなで協力してできること」の2つを設定した。一つ目の条件では、遊びやお楽しみ会だけでなく、手紙やプレゼントなど、様々な意見が出ると考える。方法も1つに限らず、意見と意見を合わせるなどして、様々な方法で、ありがとうを伝える方法を考えさせたい。

また、今回は、話合いの柱を2本立てている。一つ目の柱で、ありがとうを伝える方法を考え、二つ目の柱では、具体的に何をするのかを考えていきたい。一つ目の柱では、ありがとうを伝える方法は1つに決める必要はないため、容易に決まると予想される。したがって、二つ目の柱を中心に話合いをしていきたい。

6 第1学年及び第2学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
6年生に感謝の気持ちを伝えるために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 - 話合いの進め方に沿った意見の発表の仕方や他者の意見の聞き方を理解し、活動の方法を身に付けている。	6年生に感謝の気持ちを伝えるために、問題を発見し、解決方法について話合いの進め方に沿って合意形成を図り、仲良く助け合って実践している。	6年生に感謝の気持ちを伝えるために、見通しをもったり、振り返ったりしながら、自己の考えをもち、役割を意識して集団生活に取り組もうとしている。

7 事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
9月 中旬	2学期の係活動を考えよう。	学級会の基本的な流れや型の共通理解を図る。	学級会の流れを理解し、自分の意見を言おうとしている。【思考・判断・表現】(発言・観察)
1 1月 中旬	みんなが仲良くなれる取組を考えよう。	自分の意見に対して明確な理由が言えるようにする。 司会・黒板の役割を確認しながら進行する。	議題や決まっていることに着目して、取組を考えている。【思考・判断・表現】(発言・観察)
1 2月 初旬	お楽しみ会でする遊びを決めよう。 (前日に司会グループと進行や記録を確認)	友達の意見を受け入れ、折り合いをつけて考えるようにする。	友達の意見を受け入れ、自分の考えを明確な理由とともに伝えることができる。【思考・判断・表現】(発言・観察)
1 2月 中旬	休み時間にみんなが笑顔になれる遊びを考えよう。 (前日に司会グループと進行や記録を確認)	提案理由や決まっていることに立ち返り、意見をまとめられるようにする。	議題に対して、自分の意見を意思表示しながら、遊びを考えている。【思考・判断・表現】(発言・観察)
1月 初旬	係活動の取り組み方を考えよう。 (前日に司会グループと進行や記録を確認)	自分の立場を明確にし、一人一人が自分の考えを主張できるようにする。	自分の立場を明確にし、自分の考えを伝え、全員が納得できるような取り組み方を考えている。【思考・判断・表現】(発言・ワークシート)
1月 初旬	6年生にありがとうを伝える方法を考えよう。 (前日に司会グループと進行や記録を確認)	友達の意見に反応しながら聞き、自分の意見を、理由を付けて伝え、折り合いをつけながら、話合いを収束させる。	友達の意見に反応しながら聞き、自分の意見を、理由を付けて伝え、折り合いをつけながら、話合いを収束させることができる。【思考・判断・表現】(発言・ワークシート)

8 本時のねらい

友達の意見に反応しながら聞き、自分の意見を理由を付けて伝え、折り合いをつけながら、話し合いを収束させることができる。(思考・判断・表現)

9 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿 【評価方法】(観点)
導入 5分	[確認] 1. はじめのあいさつ 2. 議題 3. 提案理由 4. 先生からのお話 5. めあて 6. 決まっていること	○学級全員が話し合う内容を確認し、共通理解を図る。 議題 6年生にありがとうを伝える方法を考えよう そうじや南っ子タイムでたくさんお世話になったから、楽しませたいから。 もうすぐ卒業するから、ありがとうの気持ちを最後に伝えたいから。 全員1回は自分の考えを言おう。 友達の考えを聞いて、自分の考えと比べよう。 6年生と一緒に楽しめて、喜んでもらえること みんなで協力してできること	掲示物 学級会ノート	
展開 35分	7. 柱1 [出し合う] ○下の手順に従って意見を比べ合う。 出し合う 疑問 心配 賛成 [まとめる] ○出た意見の中から合意形成を図る。 ○柱2の自分の考えを学級会ノートに書く。 8. 柱2 [出し合う] 出し合う 疑問 心配 賛成 [まとめる] ○出た意見の中から合意形成を図る。	○「出し合う」で、できるだけたくさん意見が言えるように促す。 ○意見を言うときは、必ず理由を付けて言えるようにする。 ○友達の意見での疑問点をなくすことで、全員が友達の意見を理解できるようにする。 ○「心配」の意見しかでなかった考えは、省くことで選択肢を絞り、考えやすくする。 ○出た意見は、教師が短冊に書き、書記が黒板に貼り付け、意見を整理させる。 ○話し合いの軸がずれたときは、教師が助言する。 ○必要であれば、ペアで話し合い、考えを整理する時間を設ける。	掲示物 学級会ノート	○友達の意見に反応しながら聞き、自分の意見を、理由を付けて伝え、折り合いをつけながら、話し合いを収束させることができる。 【思考・判断・表現】 (発言・学級会ノート)
終末 5分	9. 振り返り ○今日の活動の振り返りを学級会ノートに書く。 10. 終末助言	○ふりかえりの観点をもとに、次の話し合いに前向きな思いがもてるように助言をする。	学級会ノート	

10 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
1月下旬	○学級会で決まったことに取り組む。	○決まったことを実践していく中でよいことや改善した方がよいところを考えさせる。	○クラスみんなで決めたことを協力し合って、実践している。 【主体的に取り組む態度】 (活動の様子)

11 板書計画

3	2	1	柱	3	2	1	案	柱	出し合う 疑問 心配 賛成	決まっている	めあて	提案理由	議題
くだから。	くだから。	くだから。		くだから。	くだから。	くだから。	理由	心配					
くなところが	くなところが	くなところが		くなところが	くなところが	くなところが							

12 座席表 (省略)

8. 令和5年度による学級会活動（1）の型

全学級で、同じ仕方で話し合いを進めていく中で、学級活動（1）の1つの型が定まってきた。
下記に計画委員会と学級会についての定まった型について記述する。

○学級会まで（計画委員会）について

	司会グループ	学級
ミニ会議	・ 議題を決める ・ 提案理由をまとめる ・ 決まっていることを確認する	
		・ 議題への意見を提出する

計画会議	・ 司会などの分担をする ・ 意見を確認する ・ 学級会の流れを確認する ・ 想定される展開を考える	・ 理由を考える ・ クラスの意見を確認する
------	---	---

○学級会について

	型	流動的	助言ポイント
◆ はじめに ◆ 司会・書記紹介 ◆ 議題確認 ◆ 提案理由確認 ◆ めあての確認	◆ めあては話し合いのスキルに関わることにする	◆ 「先生から」をどこにもっていくか	◆ 共通の土台にのせる
◆ 出し合う	◆ 事前に意見を集めておく ◆ 板書の色分けをする	◆ 細分化する 疑問 賛成 心配 提案	◆ 重要意見をひろう ◆ 議論がずれたときの修正 ◆ 少数派の意見
◆ 比べ合う	◆ 板書に残す		◆ 議論がバラバラにならないように調整
◆ まとめる	◆ 司会に提案権をもたせる	◆ しぼる数	◆ 合意形成の仕方
◆ 先生の話	◆ 教師だけが気付くポイントを褒める ◆ 司会グループを褒める ◆ 次回へつなげる		

9. 令和6年度6年生 研究授業

「1年生と絆を深める取り組みを考えよう」

参観の視点 授業の特色 事後研究会

6年 議題「1年生と絆を深める取り組みを考えよう」

●参観の視点

今回の研究授業では

流れをつかむ！（型と柱2本）

を意識して、見学してください。

○6年生の特色

- ◇ 事前委員会を設け、当日の司会、書記を児童が行う。（児童自身で話をまとめる力の育成をねらう。）
- ◇ 話し合いを2本柱とし、大きな活動の話し合いから、細かな活動計画へ詰めていく。
- ◇ 話し合いノートを活用し、自分の意見やふりかえりを整理しやすくする。（今回はロイロでします。）
- ◇ 意見・理由・心配・改善案を細分化し検討しやすくする。

●事後研究会

他者意識・自分事・切実性

○教師の介入

論点整理 共通の土台

不明確な意見を明確化（今回だと、いいところを知る方法について）

○発言量を増やす工夫

- ・普段の授業で中間層が話せる環境→発言することが当たり前にする
- ・グループで話したら必ず代表者が発言する
- グループやペアでの活動には必ず、目的意識を！

○司会力の向上

○すぐにできる事

- ・児童にまだ当たっていない児童に発言させる
- ・聴衆に反応を求める 例：「〇〇の意見についてはどうですか」

○能力向上までに時間がかかること

- ・論点を明確にして進めさせること

例：「〇〇についての意見はありませんか」「□□について話し合っていますが、他にありませんか」
黒板にある文字を指さしながら「これについて意見はありませんか」

指導案

学級活動（１） 学習指導案

- 1 対象 第6学年 29名
- 2 日時 令和5年 5月13日 月曜日 第3校時
- 3 場所 教室
- 4 題材 「1年生と絆を深める取り組みを考えよう。」
ウ 学校における多様な集団の生活の向上
- 5 題材について
(1) 児童の実態

(個人情報保護のため省略)

(2) 題材設定の理由

題材を設定する上で大切にしたいことは「ポジティブに考えられるもの」「相手意識をもてるもの」である。運動会では兄弟学級競技があり、また、最高学年としての自覚をもつ上で「1年生」という相手意識をもった話合いをさせたい。また、「絆を深める取り組み」を議題とし、条件を「1年生のことを知り、6年生のことを知ってもらえる活動」とすることで、6年生の名前を覚えてもらう、1年生の名前を覚えるといった目的をもって、ただ遊ぶだけの時間にならないことを意識して活動を考えたい。

また、決定した活動に応じて話合いの柱2で計画を立てていくが、その際は「出し合う」や「比べる」といった整理されたプロセスではなく、あえて前の意見につなげて自分の意見を発表していくことで、学級で合意形成を図ることに取り組みたい。これは、スピーディに計画を立て、まず活動に取り組み、改善点を次に活かしてさらに話合うという、活動と活動をつなげるPDCAサイクルを考えていきたいからである。

6 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
- みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために他者と協働して取り組むことの意義を理解している。 - 合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し活動の方法を身につけている。	楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、問題を発見し、解決方法について多様な意見の良さを生かして合意形成を図り、信頼し支え合って実践している。	楽しく豊かな学級や学校の生活を作るために、見通しを持ったり振り返ったりしながら自己の良さを発揮し、役割や責任を果たして集団生活に取り組もうとしている。

7 事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
4 月 23 日	学級をより楽しくする活動を考えよう。	相手を学級に設定し、楽しくする活動を考えることで、積極的に意見を出し合う素地を作る。	・議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考えている。 【行動観察】 (思考・判断・表現)
5 月 2 日	クラスの「のびしろ」を考えよう。	自分たちの課題を「伸びしろ」と捉えることでポジティブな思いをもって意見を出し合いつつ、様々な意見の中で優先順位をつけるなど、合意形成を図る。	・議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考えている。 【行動観察】 (思考・判断・表現)
5 月 9 日	学級のキャラクターをつくらう。	自分たちの目標としたいことを学級のキャラクターに反映させ、意識づけさせる。	・議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考えている。 【行動観察】 (思考・判断・表現)

本時に向けての事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
5 月 1 0 日 朝休み	・事前委員会として司会、副司会、書記で話合う内容を決める。	・学級の現状を考え、優先順位を考えて、意見箱から議題を選ぶ。	・合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し活動の方法を身につけている。 【行動観察】(知識・技能)
5 月 1 0 日 中間休み	・学級会の柱 1 について、自分の意見を提出する。	・本時の議題から、ただ遊ぶのではなく、1 年生のことを知ったり 6 年生のことを知ってもらったりすることができる活動を考えるよう声かけをする。	・みんなで楽しく豊かな学校の生活を作るために意欲的に意見をもとうとしている。【行動観察】(主体的に学習に取り組む態度)
5 月 1 0 日 昼休み	・司会、副司会、書記で、全員の意見をもとに学級会の見通しをもつ。	・出た意見に目を通し、どのような話合いになりそうかや、どのようにまとめられそうか等、事前に見通しをもたせる。	・合意形成の手順や深まりのある話合いの進め方を理解し活動の方法を身につけている。 【行動観察】(知識・技能)

8 本時のねらい

議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考える。(思考・判断・表現)

9 本時の展開

議題	1年生と絆を深める取組を考えよう。			
提案理由	運動会の兄弟学級競技を盛り上げるために、1年生との絆を深めていきたいから。			
話合いのめあて	たくさんの視点から折り合いをつけ、よりよいアイデアをみんなで考えよう。			
決まっていること	みんなが取り組み、1年生との絆が深められるもの。			
	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿 【評価方法】(観点)
導入 5分	1. 始めの挨拶 2. 司会の紹介 3. 議題・提案理由・めあての提示 4. 先生から	・挨拶などは短時間にまとめ、展開の時間を確保する。 ・「絆が深まる」の意味を考え、ただ遊ぶのではなくお互いを知れる活動を話合えるよう助言する。	タブレット 掲示物	・議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考えている。 【行動観察】 (思考・判断・表現)
展開 35分	5. 話合い 話合い 【柱1】「1年生と絆を深める活動を考えよう」 [出し合う] ・事前に考えた個人の提案と理由を出し合う。 ・出た意見の心配な点を出し合う。 ・心配な点を踏まえた改善案を出し合う。 [比べる] ・出ている意見からよりよい意見を考える。 [まとめる] 【柱2】「活動の計画をたてよう」 ・いつ、どこで、何を、どのようにおこなうか考える。	・個人の意見は本時までにタブレットで提出し、全員が意見をもって学級会に臨むようにする。 ・意見を発表するときは必ず理由も発表させる。 ・板書を意見は児童、理由は教員が書くことで、板書を活用しながら話合いに集中できるように配慮する。 ・「比べる」際は意見や理由をシートにまとめて黒板に掲示することで、考えを整理しやすくする。 ・必要に応じて、どの意見に自分の考えが近いかわき手させることで現状を把握させ、少数の意見も意識させながらまとめにつなげる。 ・それぞれの意見のよさを踏まえ優先順位や取り組み方を工夫することを目指す。 ・状況に応じて司会がとりまとめ、柱2へ移る。 ・柱1の内容を具体化していくが、必要に応じて教員から留意点を先に児童に示し、計画に無理が出ないようにする。 ・柱2では最初から意見をつなげていくなかで合意形成を図る。教員は司会や書記に助言し、一定の意見が固まればまとめ、次に繋げていくことを支援する。		
終末 5分	6. 終末助言 7. 終わりの挨拶	・ふりかえりの観点をもとに、次への話合いに前向きな思いがもてるように助言をする。 ・自分の意見をもてたか、よりよい意見を考えることができたか、話合いに積極的に参加できたかの観点をもとに振り返る。		

1 0 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
未定	話し合いで決まった内容について実践する。	・自分達だけでなく、1年生の様子も見ながら活動に取り組むことを指導する。	・楽しく学校の生活を作るために、見通しをもって自己の良さを発揮し、役割や責任を果たして集団生活に取り組もうとしている。 【行動観察】(主体的に学習に取り組む態度)
活動後	実践の内容をふりかえる	・次により楽しく活動するためにはどのようなことを決めておかなければならないかを意識して話し合わせる。	・より楽しく豊かな学級や学校の生活に向けて、振り返りながら自己の良さを考え、役割や責任を果たしてよりよい集団生活に取り組もうとしている。【行動観察】(主体的に学習に取り組む態度)

1 1 板書計画

決まったこと		比べる	出し合う	・	決まっていること	提案理由	議題
--------	---	-----	------	---	----------	------	----

1 2 座席表 (省略)

10. 令和6年度つくし 研究授業

「お楽しみ会の相談をしよう」

参観の視点 授業の特色 事後研究会

つくし 議題「お楽しみ会の相談をしよう」

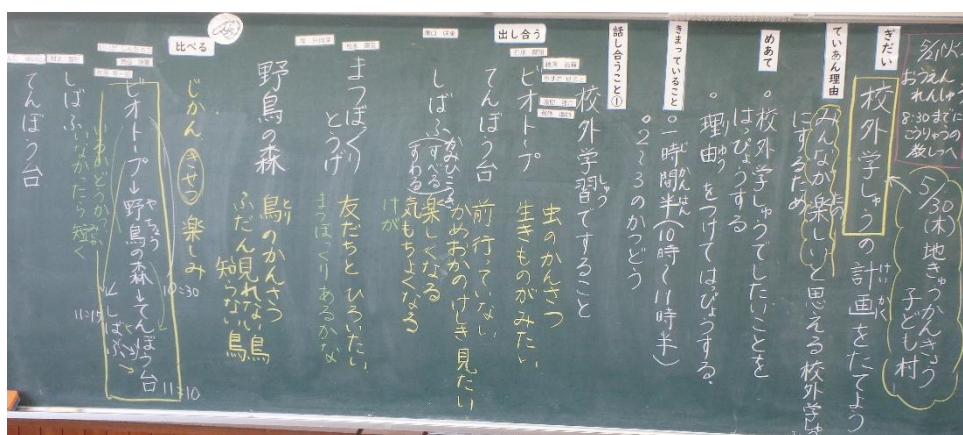
●参観の視点

今回の研究授業では

異年齢による話し合い 共通の土台から自分事へ

を意識して、見学してください。

●つくしの特色を紹介



1回目の学級会の板書です。「校外学習で何をするか」考えました。

5つの場所からしたいところを「出し合った」後、2～3の活動に絞りました（「比べる」）。限られた時間の中で、どのように回れば効率がよいか、また、自分だけでなく、友達の思いも大切にしている意見も出しました。

授業研では、

お楽しみ会で活動したいことを出し合います。柱は2つの予定です。

- ・柱1は、どんな活動にするか決める。
→前日までにどんな活動をしたいか考えさせ、ロイロノートに記入。
- ・柱2は、活動の計画を考える。です。
→グループで計画。
→高学年で核となる児童を各グループに配置。

学年や特性の違いを踏まえつつ、自分事として話し合いに参加できるようにしていきたい。

●事後研究会

○合意形成に至るまでに

合意形成とは、意見の一致を図ること。特に議論などを通じて、関係者の根底にある多様な価値を顕在化させ、意思決定において相互の意見の一致を図る過程。

具体的に言うと、

- ・根拠をもって伝える：決まっていること 季節など
今授業では、「2時間でできるか」「夏しかできない」
- ・他者意識：だれを中心に考えるか
今授業では、「6年生が最後だから、その意見を大切にしたい」「水が苦手な人でも・・・」
- ・妥協点を見つける
今授業では、水嫌いで傘も使える

○発表が苦手な子でも

- ・視覚化されている
今授業では、ICTによって議論の場所が明確化されている
(文字で分かる 色で分かる 変化が見えるなど)
- ・自信を持って発表できる
今授業では、読めば、意見を伝えられるものがある

指導案

学級活動（１） 学習指導案

- 1 対象 つくし１組５名、つくし２組５名、つくし３組６名
- 2 日時 令和６年６月１４日金曜日 第２校時
- 3 場所 教室
- 4 題材 「お楽しみ会の相談をしよう」
ウ 学校における多様な集団の生活の向上
- 5 題材について
(1) 児童の実態

(個人情報保護のため省略)

(2) 題材設定の理由

一昨年度の２学期より、「個人の学期の目標」を立て、みんなの前に出て達成度の振り返りをしている。そして、一人一人が自分の頑張りと友達からの励ましを受けて目標が達成できた時には、「お楽しみ会を開く」ことにし、頑張った先にはみんなで楽しいことがある、という見通しをもって取り組めるようにしてきた。このお楽しみ会をどんな内容にするかという話し合いなら、児童が楽しみに感じるものであり、「自分事」として話し合いに参加できると考え、今回の議題として設定した。

取組をする条件として「みんなが楽しめること」「２時間を使ってすること」の２つを設定した。自分がしたいだけでなく、みんなができることか、楽しめることか、ということについて、意見を出し合い、しっかり話合わせたい。

今回は、話し合いの柱を２本立てている。一つ目の柱で、お楽しみ会の内容を考え、二つ目の柱で、お楽しみ会の具体的な計画を考えていきたい。一つ目の柱は、昨年のお楽しみ会の話し合いも思い出しながら考え、決定しやすいと思われる。その後、高学年を中心にしてグループで二つ目の話し合いをしていきたい。

6 児童の姿と個別の課題設定

	学年・児童名	児童の姿	個別の課題設定
つくし1組		個別に応じた児童の姿を記入（省略）	話合いの中での個別の課題を設定し、目標を記入（省略）
つくし2組			
つくし3組			

7 事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【評価方法】（観点）
5月20日 1校時	校外学習の内容を考える。	昨年の校外学習の時間の流れや活動の様子を写真で振り返りながら、校外学習でしたいことを自由に出し、話合うようにする。	校外学習でしたいことについて理由をつけて発表している。 【発言・行動観察】 （思考・判断・表現）
6月7日 1校時	お楽しみ会の見通しをもつ。	これまでにお楽しみ会でしてきたことをふり返り、お楽しみ会についての気持ちを高める。	今までのお楽しみ会を思い出し、考えている。 【発言・行動観察】 （思考・判断・表現）
6月10日 1校時	お楽しみ会でしたいことを考える。	お楽しみ会でしたいことについて理由をつけて考え、ワークシートに記入する。お楽しみ会へのイメージを持たせる。	お楽しみ会でしたいことについて理由をつけて考えている。 【発言・行動観察】 （思考・判断・表現）

8 本時のねらい

友達の考えを知り、自分の考えを伝えることができる。(思考・判断・表現)

9 本時の展開

議題	みんなが楽しめるお楽しみ会について考えよう。			
提案理由	1学期の目標を達成できたお祝いをみんなでしたいから			
話合いのめあて	友達の考えを知り、自分の考えを伝えよう。			
決まっていること	・2時間を使ってする。 ・全員が楽しめること			
	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿 【評価方法】(観点)
導入 5分	1. 始めの挨拶 2. 議題・提案理由・めあての提示	・話合う内容を確認し、共通理解を図る。 ・司会、黒板係は教師が担当する。	昨年のお楽しみ会の写真	・友達の考えを知り、自分の考えを伝えることができる。 【発言・行動観察】 (思考・判断・表現)
展開 35分	3. 話合い <柱1> お楽しみ会の内容について考える。 ○出し合う グループ 水遊び 調理 おばけやしき ○比べる ○まとめる 出た意見の中から合意形成を図る。 <柱2> お楽しみ会の計画を立てる。(時間配分、やり方、ルール等)	・事前に自分の意見をもち、進んで発表できるようにする。発表しにくい児童は、教師から紹介する。 ・理由をつけて意見を発表できるようにする。 ・友達の意見に対しての疑問や不安点をなくすことで、全員が友達の意見を理解できるようにする。 ・出た意見は、教師が板書で整理する。 ・今までの経験をもとに、高学年を中心にグループで話合う時間を持つ。 ・提案理由や決まっていることを確認し、議題に沿った話合いができるように助言をする。	ロイロノート	
終末 5分	4. 振り返り 5. 終末助言 6. 終わりの挨拶	・振り返りの観点をもとに、次の話合いに前向きな思いがもてるように助言をする。		

10 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【評価方法】(観点)
6月17日の週	お楽しみ会の具体的な計画を立てる。	時間の流れ、ルールなど、みんなが楽しめるお楽しみ会になるように、話合わせる。	お楽しみ会の目的を意識し、お楽しみ会の計画について話し合っている。【発言・行動観察】(思考・判断・表現)
7月10日ごろ	お楽しみ会を開く。	お楽しみ会の目的を意識しながら、みんなで楽しむようにする。	ルールを守るなど、みんなが楽しめるお楽しみ会になるように行動している。 【行動観察】(主体的に学習に取り組む態度)

11 板書計画

議題 みんなが楽しめるお楽しみ会について考えよう。	提案理由 一学期の目標を達成できたお祝いをみんなですしたいから。	決まっていること ・時間は2時間(90分) ・みんなが楽しめるもの	出し合う 〈柱1〉お楽しみ会の内容	比べる	決まったこと 〈柱2〉お楽しみ会の計画
---	--	---	---------------------------------	--	-----------------------------------

12 座席表(省略)

11. 令和6年度3年生研究授業

「光りかがやけ！学習発表会」

参観の視点 授業の特色 事後研究会

3年 議題「光りかがやけ！学習発表会」

●参観の視点 授業の特色

今回の研究授業では

学級活動(2)(3)の授業の仕方

を意識して、見学してください。

○学級活動(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」

「身の回りの整理やあいさつなどの生活習慣」「心身の健康安全」「食育」

○学級活動(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現

「自己実現力」「社会参画」「主体的学習者」「学校図書の利用」

授業の流れ「つかむ」「さぐる」「見つける」「決める」となります。

●3年生の取組を紹介

☆大事にしたポイント

いつ、どこで、何を、どのようにという視点から具体的な実践方法をみつけられるように意識

○参観の視点

・なりたい自分になるための実践方法について、話し合いを通して、より具体的に立てる

○期待する振り返り

・友達のアドバイスで実践方法を具体的に考えることができた。

・実践方法を考えるときに具体的に考えることが大切。

・話し合いを通して、自分の考えが広がり深まった。

●事後研究会

○取り組みの流れ

理想像→目標→現実的目標→振り返り→目標の再設定→振り返り

身近な理想像は、一つ上の学年！
最終的完成形を示す！

経験を積んでいけば、1回目から
現実的目標を作れます！

○自分事にするために

・動画やアンケート等を活用して、イメージを明確化

・事前に意見をもたせておく

○グループ活動

・目的の明確化

(交流 アイデアを生み出す アドバイスをもらうなど)

(その後の活動:1人が意見をまとめる 相手の意見を発表 紙に書くなど)

・時間の設定

(思っているより短めに設定 活動の様子を見て設定)

○板書

・グループ分けなどをする ・子どもが書く場合は見えるように指導

・自分の変容が見えるように足跡を残す

最終的な理想は、その時間で意見をもつことができることです！

指導案

学級活動（３） 学習指導案

1. 対象 第３学年 21 名
2. 日時 令和 6 年 9 月 6 日 金曜日 第 2 校時
3. 場所 教室
4. 題材 「光りかがやけ！学習発表会」

ウ 現在の将来や目標をもって生きる意欲や態度の形成

5. 題材について

(1) 児童の実態

(個人情報保護のため省略)

(2) 題材設定の理由

本題材は、学級活動「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」の内容「ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の育成」として計画した。もう一度、自分自身を見つめ直し、「今の自分」から、3 年生として「なりたい自分」を見定め、意思決定をすることにより、自らの考えた目標に向かって取り組む態度が育成されると期待している。

1 学期の振り返りや他者が望む理想の 3 年生のアンケートを活用して、自分のよさや可能性に気付かせるとともに、がんばることの大切さを理解し、話合いを通して、他者の意見も踏まえて、自分がんばることを意思決定できるようにしたい。一人一人取り組む内容は違っていても、ともに「なりたい自分」の目標に向かって、努力し励まし合って実践を積み重ねていくことで主体的に行動することを期待したい。

6. 第 3 学年及び第 4 学年の評価規準

よりよい生活を築くための 知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
・働くことや学ぶことの意義を理解するとともに、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	・自己の生活や学習への課題について考え、よりよく生きるための課題を見だし、解決のために話し合って意思決定し、自己のよさを生かしたり、他者と協力したりして、主体的に活動している。	・現在及び将来にわたってよりよく生きるために、自分に合った目標を立て、自己のよさを生かし、他者と協働して目標の達成を目指しながら、主体的に行動しようとしている。

7. 事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
6月14日	・学級の人権目標を考えよう。	・相手を学級に設定し、よりよい学校生活を送るための目標を考え、意見を積極的に出し合う。	・議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考えている。 【行動観察】 (思考・判断・表現)
7月8日	・1学期SUN年生まとめの会を考えよう。(学級)	・相手を学年全員と設定し、3年生の仲が深まる方法について考え、積極的に意見を出し合ったり、実践したりする。	・議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考えている。 【行動観察】 (思考・判断・表現)
7月11日	・活動内容を2つに決めよう。(学年)	・相手を学年全員と設定し、他学級の意見を交流しながら、3年生の仲がさらに深まる活動を考え、積極的に意見を出し合う。	・議題、提案理由、条件、それぞれの意見から多角的に考え、折り合いをつけながらよりよい意見を考えている。 【行動観察】 (思考・判断・表現)
7月16日	・話合いで決まった内容を実践する。(学年)	・楽しい活動だけにならないように、提案理由を大事に指導する。	・楽しく豊かな学校生活を送るために、見通しをもって自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団生活に取り組もうとしている。 【行動観察】 (主体的に学習に取り組む態度)
7月17日	実践の内容を振り返る。	・次回の活動をより充実したものにするために何が大切かを意識して振り返りを指導する。	・楽しく豊かな学校生活を送るために、見通しをもって自己のよさを発揮し、役割や責任を果たして集団生活に取り組もうとしている。 【行動観察】 (主体的に学習に取り組む態度)

本時に向けての事前活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
8月28日	・(予習) ロイロでのアンケート	・1学期の自分を振り返るとともに2学期の「理想の学級・なりたい自分」について考える。	・1学期の自分を振り返り目標を考える。 【行動観察】 (知識・技能)
9月4日	・光りかがやけ！パワーアップ大作戦！	・予習のアンケートを生かして、2学期の目標を考え、それを達成するための方法を意思決定する。	・自分のよさや可能性を生かしながら「なりたい自分」の目標を達成するための方法を考えて、意思決定ができる。 【行動観察】 (思考・判断・表現)
9月5日	・(予習) ロイロでのアンケート	・2学期の目標を生かし、学習発表会に向けて「なりたい自分」について考える。	・学習発表会に向けて「なりたい自分」について考えることができる。 【行動観察】 (知識・技能)

8. 本時のねらい

学習発表会に向けて「なりたい自分」の目標を考え、意思決定し、実践方法を考えることができる。(思考・判断・表現)

9. 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	目指す児童の姿 【評価方法】(観点)
導入 5分 つかむ	1. つかむ 1学期を振り返り、自分や友達、自分達の成長について話し合い、問題意識を高める。	・1学期の自分自身を振り返り、一人一人の成長にしたことに気付かせ、さらなる成長に向けての目標への意欲付けを意識させる。 ・2学期の目標にも着目させる。	・タブレット(アンケート)	・「なりたい自分」に向けて自らの目標を意思決定し、実践方法を考えることができる。 【ワークシート】 (思考・判断・表現)
なりたい自分になるための方法を見つけよう。				
展開 25分 さぐる 見つける 伝える	2. さぐる 2学期の目標を踏まえ、学習発表会に向けて「なりたい自分」について考える。 3. 見つける 「なりたい自分」に近づくために、どのような目標にすればよいかを考える。 ・リコーダーをがんばる ・大きな声で歌う 4. 伝える お互いに伝え合い、さらにどうすれば目標に近づけるのかを話し合う。 ・毎日練習する ・相手に聞こえる声の大きさを発表する。	・学習発表会に向けて、「なりたい自分」のイメージができない児童には、学習発表の活動内容を提示して、具体的にイメージさせる。 ・グループでの話し合いの前に、ロイロで今の自分を振り返らせる。 ・自分の意見がもてない児童に対してはアドバイスをするように声かけをする。	・タブレット ・ワークシート	
終末 15分 決める 振り返り	5. 決める 「なりたい自分」への目標を達成するために、がんばることを決め、ワークシートに記入する。 6. 振り返り	・目標を立てることが難しい児童には個別に声かけをする。 ・「なりたい自分」の目標を立てることができたか、自分の考えを伝えたり、相手の意見を受け入れたりすることができたか、次はどうかなどの視点で振り返りをさせる。	・ワークシート ・タブレット	

10 事後の活動

児童の活動	指導上の留意点	評価規準 【観点】(評価方法)
- 自分の立てた目標や実践方法について振り返る。 - 友達同士で実践を確認し合う。	事後に実践を振り返る機会を毎週末に設定する。また、必要に応じて新たな目標や実践方法を考えるように助言する。	友達と励まし合いながら、意思決定した目標に粘る強く取り組み、これからの自分に必要なことを適切に判断しながら、進んで実践している。 【行動観察】(主体的に学習に取り組む態度)

11 板書計画



12 座席表 (省略)

先生から



- 1 これから第()回 学級会を始めます。よろしくお願いします。
- 2 今日の司会は「 」、副司会は「 」さん、黒板は「 」さんです。よろしくおねがいします。
- 3 今日の議題は「 」です。
- 4 提案理由は「 」です。
- 5 決まっていることは「 」と「 」です。
- 6 今日の話し合いのめあては、「 」です。
めあてが達成できるような話し合いにしましょう。
- 7 今日話し合うことは、

はじめに、 から話し合います。時間は()分の予定です。

●まず、意見を出し合いましょう。意見を発表してください。

●次に、意見を比べ合いましょう。黒板の意見をよく見て発表してください。

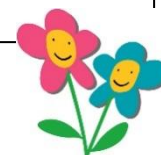
- ・()について質問はありませんか。
- ・()という意見が出ていますが、みなさん、どう思いますか。
- ・()と ()をまとめることはできませんか。
- ・()については、あまり意見が出ていません。()についての意見はありませんか。

- ・()と()では()のほうが、賛成が多いので、()に決めてもいいですか。
- ・みなさんの意見を聞いていると、()に意見がまとまってきているようです。()に決めてもいいですか。

- それでは、()に決定します。

★ 提案理由や決まっていることを意識して話し合いを進めましょう。

★ できるだけ多くの人の意見を聞きながら進めましょう。



- 8 先生の話です。先生、お願いします。
9 これで、第()回 学級会を終わります。

だい かい がっきゅうかい
第 回 学級会ノート



がつ にち ()
月 日 ()

ねん くみ ばん なまえ ()
年 組 番 名前 ()

ぎだい 議題			
ていあんりゆう 提案理由	記入して印刷でも自分で記入でも可。		
き 決まっていること	発達段階に応じて使い分ける		
はなあ 話し合い のめあて			
しかい 司会グループ	しかい 司会		こくばんきろく 黒板記録

はなあ 話し合うこと	じぶん いけん りゆう (理由を入れて書く) 自分の意見
①	
②	

き 決まったこと	
-------------	--

★振り返り★

☆提案理由やめあてを意識できた。	振り返りの項目は自分たちで考える。	◎	○	△
☆自分の意見に理由をつけて言えた。		◎	○	△
☆友達の意見を聞いて		◎	○	△
☆決まったことやこれからの取組が分かりましたか		◎	○	△

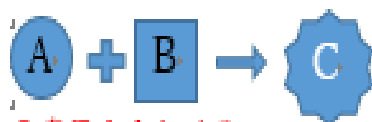
☆感想(自分が頑張り 友達の頑張り 決まったこと 自分の役割 これから頑張りたいことなど)

学級会 決め方



○新しい考えを作る。

「AとBの意見のよいところを生かして、Cという意見にしてはどうですか」
「Cの意見にするとみんなの意見が入られるね」



○意見を合わせる。

「AとBの意見を合わせてABの意見にしてはどうですか」



○優先順位を決める。

「次は△△の意見を行うことにして、今回は○○の意見に決めていいですか」
「□□の意見は、休み時間にクラス遊びでしたらいいと思います」



○条件をつける。

「○○の意見に△△ということを付け加えるといいと思います」
「△△の内容が入れば、みんなで決めた条件に合うので、○○の意見がいいです」



○少しずつ全部行う

「Aの意見とBの意見について、時間を短くして両方行いことに決めていいですか」
「みんなの意見をまとめて、上手くできるか考えないといけないと思います」



○意見を認め、ゆずる。

「○○さんの思いはよく分かりました。みんなの意見を聞いて、今回は私の意見ではなく○○さんの意見でいいです」



○多数決を行う

「多くの意見について話し合いましたが決まらないので、今回は多数決で決めていいですか」

13. 研究同人

(個人情報保護のため省略)